

報道関係各位

ZENGA ²⁰¹⁹10.1^{tu}e - 12.1^{su}n

白隠と仙厓展

公益財団法人佐川美術館（所在地:滋賀県守山市）では、秋季企画展「ZENGA 白隠と仙厓展」を開催いたします。江戸時代に活躍した臨済宗の禅僧・白隠（1685-1768）と仙厓（1750-1837）。両者ともに、衆生済度（迷いの苦しみから衆生を救い悟りの世界に渡し導く）の精神で、禅の普及に努めました。そして禅の教えや体験を時に厳しく、時にわかりやすく伝えようと、数多くの書画を残します。彼らの描く自由で豪放な書画は、一見するとユーモア溢れる筆致で描かれていますが、そこには禅的真理の様態が表現されているとともに、痛烈な社会諷刺や謎掛けといった様々な仕掛けが散りばめられています。

白隠は釈迦や達磨などの仏教尊像をはじめ、布袋などの民間信仰にもとづく様々な書画を手がけています。その中でも特徴的なのが、古典や禅録のみならず当時流行した謡曲や狂言歌謡まで、さまざまな賛が加えられているところです。「画（絵画）」と「賛（言葉）」、2つの要素から構成されることで、「形を超えた」禅の真理を表現することに成功したのです。

一方、仙厓の手がけた書画は、白隠同様に仏教や民間信仰の神々は勿論のこと、庶民のくらしを描いた風俗画に至るまで、聖俗あらゆるものがモチーフとして描かれています。「世の中の絵画には法があるが、仙厓の絵には法は無い」という「厓画無法」を宣言したように、様々なモチーフを用いて、白隠よりも親しみやすく禅的真理を視覚化したと言えます。

本展では、現代人にとって単純に「ゆるくてかわいい」と思える彼らの書画から、本来伝えるべきそのメッセージを読み解くことで、禅画（ZENGA）の魅力をご紹介します。

展覧会実施概要

- ◆名 称：ZENGA 白隠と仙厓展
- ◆会 期：2019年10月1日(火)～12月1日(日)
- ◆開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- ◆休 館 日：月曜日（祝日の場合は開館）、10/15、11/5
- ◆入 館 料：一般 1,000 円／ 高大生 600 円／中学生以下は無料 ※要保護者同伴
※専門学校・専修学校は大学に準じる。 ※障害者手帳提示で、本人と付添者（1名のみ）無料

〔主 催〕 公益財団法人佐川美術館

〔特別協力〕 海禅寺、自性寺 大雅堂、神勝寺、清梵寺、選佛寺、東福寺、法輪寺、法華寺、満勝寺、龍雲寺、龍嶽寺、大洲市立博物館、九州大学、公益財団法人永青文庫、花園大学、福岡市美術館、早稲田大学會津八一記念博物館、株式会社加島美術、株式会社ギャラリー創、古美術さかもと

〔監 修〕 芳澤勝弘（禅学・禅宗史研究家、花園大学国際禅学研究所顧問）

〔後 援〕 滋賀県、滋賀県教育委員会、守山市、守山市教育委員会

〔協 力〕 SG ホールディングス株式会社、佐川急便株式会社、佐川印刷株式会社

ZENGA HAKUIN & SENGAI

白隠慧鶴（はくいんえかく：1685-1768）

白隠は駿河国原宿（現在の静岡県沼津市）の間屋の家に生まれ、幼時に近所の寺で聞いた地獄話に戦慄したことを契機に、15歳で郷里にある松蔭寺で出家し、「慧鶴」と名づけられます。諸国行脚の修行の後、31歳で松蔭寺の住職となり、その後も全国を巡って布教活動を行う中で、四弘誓願（仏の道を求める者が最初に立てる四つの誓い）の重要性を説き、その実践とともに精力的に禅の教えを広く伝える布教につとめます。その功績から「臨済宗中興の祖」と呼ばれ、「五百年間出」（五百年に一人の傑物）と讃えられています。現在に至るまでの臨済禅の法系は、全て白隠に帰着するほどの人物でありながら、京都の大本山から遠く離れた地で活躍し、白隠は生前より著作物（語録等）を刊行するとともに、おびただしい数の書画を描いて、大名から庶民に至る多くの人を教化したことも特筆されます。



1. 《蓮池観音》江戸時代(18世紀) 個人蔵

2. 《すたすた坊主》江戸時代（18世）早稲田大学
會津八一記念博物館蔵

仙厓義梵（せんがいぎぼん：1750-1837）

仙厓は美濃国武儀郡（現在の岐阜県関市）の農家の次男として生まれます。11歳の頃に美濃・清泰寺の空印円虚のもとで得度し、「義梵」と名づけられます。その後19歳ではじめて行脚の徒につき、武蔵国、東輝庵の月船禅慧に師事します。師の没後、32歳で諸国を行脚し、38歳のとき九州博多の聖福寺第122世・盤谷紹適の弟子となり、40歳でその跡を継いで聖福寺の住職となります。「扶桑最初禅窟」の後鳥羽上皇親筆による勅額が山門に掲げられた聖福寺は、建久6年（1195）に南宋より帰国した臨済宗の開祖・栄西禅師によって創建された寺院で、文字通りわが国最初の禅寺とされています。聖福寺は、栄西禅師ゆかりの由緒ある寺院でしたが、仙厓が住持となった当時は、伽藍は荒廃しており、62歳で弟子の湛元等夷に持住職を譲るまで、伽藍の再整備と弟子の育成につとめながら、数多くの書画を手がけました。



4. 《天狗図》江戸時代（19世紀）福岡市美術館（石村コレクション）蔵

3. 《文殊師利菩薩像》江戸時代（19世紀） 福岡市美術館（石村コレクション）蔵

みどころ

■幅広いテーマの禅画を一挙に紹介



5. 《布袋吹於福》 江戸時代（18世紀）
法華寺蔵（大洲市立博物館寄託）

白隠は神仏、祖師、民間信仰に題材を求め、特に「達磨」や「布袋」「お多福」といった禅画におけるお馴染みのキャラクターを用いて、時にかわいく、時におどろおどろしい禅画を描きました。《布袋吹於福》は煙草好きの白隠自身が布袋と重ね合わせて描かれ、布袋が吹いた煙草の煙から妙齢のお多福があらわれるユニークなものです。白隠が布袋に化身し、お多福を吹きだして、皆さんに幸せになってほしいと願う思いが込められています。「中国浄土宗の開祖、善導大師が念仏を唱えると阿弥陀さまになったが、この白隠布袋がお多福を吹きだせるのは、さてどのような功德によるものか」という賛、さらに「一生懸命きばって吹き出そうとしてもお多福だけは難しい」という白隠布袋のセリフによって、複雑な禅の教えに親しみを覚えます。

悟りの境地ともいえる「厓画無法」を宣言し、技巧を捨て自由奔放に描いた仙厓は、神仏や禅機図（禅の悟りの契機や禅僧問答の機微を象徴的に表現した禅宗独特の絵画）など禅画の主要な画題を描くとともに、動物をモチーフとしたものや九州博多の民衆との交流に基づく風俗画も手がけています。《稚児舞図》では博多の正月行事であった松囃子の光景が描かれています。松囃子は福祿寿、恵比寿、大黒の三福神とともに博多の町を巡るもので、「博多どんたく」の起源とも言われています。かわいらしい稚児の舞姿と、年賀の喜びに沸く群衆の姿からその熱気が伝わるようで、人々に混じって正月を祝う仙厓の姿が思い浮かびます。



6. 《稚児舞図》文化14年（1817）
九州大学蔵（福岡市美術館寄託）

ZENGA HAKUIN & SENGAI

■白隠の画賛に注目！

白隠が手がけた書画は、禅で言うところの「対機説法」、つまりは相手の資質(機)に応じて描かれていた事がうかがえます。例えば自性寺(大分県・中津市)の祖山和尚の求めによって描かれた《富士大名行列》は、霊峰・富士山の麓を大名行列が通る構図で描かれていますが、その「賛」(画面左の漢詩)には「写得老胡真面目 杳寄自性堂上人 不信旧臘端午時 鞭起葛羊問木人」とあり、「かねてから達磨の絵を頼まれていたが、ここに達磨の真骨頂を描いた」と記されます。どこにも達磨は描かれておらず、威風堂々たたずむ富士山と、それには目もくれずに往来する大名行列や庶民の姿が本図に描かれています。白隠は上半分の白富士を達磨、すなわち「真諦」(仏法の真理)とし、下半分の大名行列を「俗諦」(俗世間の道理)を表わすという、「真俗二諦」の相関関係を示したのです。



7. 《富士大名行列》江戸時代(18世紀) 自性寺 大雅堂蔵(九州国立博物館寄託)

展示期間：10月1日(火)～11月4日(月・祝)

また、魔を払う力をもつ道教の神・鐘馗がすりこぎを持って鬼を搦り潰している姿が印象的な《鐘馗鬼味噌》からは、白隠の深遠な衆生済度の精神がうかがえます。賛には「鬼みそばかりは、どうもむごたらしいことをせねばならので、搦りにくいものじゃ」という鐘馗のセリフが記されています。そして「鐘馗大臣のむすこ也」とされる、鉢を押さえて鐘馗を手伝う息子のセリフが続きます。「ととささ、鬼みそを、ちとなめて見度ひ」、つまり「お父さん、鬼味噌をちとなめてみたいよ」とつぶやいています。鬼味噌は味噌に唐辛子や野菜などを入れた辛い味噌のことですが、ここでは人間のもつ邪念や煩惱が鬼に象徴されています。「食」、「瞋」、「痴」と呼ばれる人間のもつ悪を滅して、本分の自己に気付かせるのが、この鬼味噌です。鐘馗に扮した白隠が鬼味噌を、子どもに象徴される衆生に勧めることが、画賛に込められた白隠のメッセージとなります。



8. 《鐘馗鬼味噌》江戸時代(18世紀) 海禅寺蔵

ZENGA HAKUIN & SENGAI

■仙厓の描く愛らしい動物たち

素朴で「愛らしい絵」というイメージの仙厓作品ですが、それまでの絵画の常識にとらわれず、自由な筆致で様々な画題を手がけています。なかでも動物を描いた書画が多く残されており、即興で仕上げられながらも、その愛らしさに魅了されます。

《猫の恋図》には目をらんらんと輝かせ、お尻を高々と上げて、今にも何かに飛びかかりそうな猫が描かれています。春の夜になるとさかりのついた猫が「ニャアニャア」と鳴く鳴き声すら、仙厓には法華経のお題目に聞こえたのでしょうか。画面には「南無妙法蓮華経 猫の恋」とあり、猫の鳴き声「ニャムミャウ」が「南無妙」の響きに通じるユニークな発想がうかがえます。また、猫が小判を見つめるように、猫の顔のすぐ横に仙厓の印が捺されています。「猫に小判」を意識したかのような印の配置にも仙厓のユーモアあふれる表現が見て取れます。



9.《猫の恋図》江戸時代（19世紀）九州大学蔵（福岡市美術館寄託）



他にも仙厓は様々な動物を描いています。どんぐり眼に驚鼻の、まるで人間のような姿の猿が描かれた《猿図》は、自画像を意識したかのようです。「さるほどによくできました。」という画賛は「猿」と「然る」を掛けており、メガネザルとテングザルを掛け合わせたようなこのヒョウキンな猿が私たちを褒めているように見えます。

シンプル極まる素朴な表現で仙厓によって描かれたこれらの愛らしい動物たちにもご注目ください。

10.《猿図》江戸時代（19世紀）福岡市美術館（石村コレクション）蔵

イベント情報

■記念講演会 日時：10月6日（日）、11月3日（日） 各14：00～

講師：芳澤勝弘氏（本展監修者、禅学・禅宗史研究家）

定員：100名（先着） 参加費：無料 ※但し入館料は必要 会場：樂吉左衛門館ロビー

■ワークショップ（自由参加制） ミニ色紙に禅画を描いてみよう！

寸松庵サイズの色紙に、墨を使って白隠や仙厓のように禅画を描くワークショップです。

日時：10月20日（日） 10：00～15：00

参加費：無料（別途入館料は必要） ※材料がなくなり次第、終了いたします。

●広報用写真について

本プレスリリース中に掲載している画像データをご用意しております。

画像データをご希望の方は、同封の作品画像使用申込書(プレゼント用招待券申込付)に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申送ください。

当館ホームページ(<http://www.sagawa-artmuseum.or.jp/press/>)から画像申請も受け付けております。

その他の画像が必要な場合は、企画担当者までご連絡ください。

なお、作品画像につきましては、当該展覧会の広報以外でのご使用はお断りしております。トリミングなどの画像の加工はご遠慮ください。また、申込書に記載しておりますキャプションの表記もお願い致します。

●プレゼント用招待券について

読者・視聴者・リスナーへのプレゼント目的にかぎり、本展覧会会期中有効のご招待券を 10 枚までご提供させていただきます。

ご希望の方は同封の作品画像使用申込書(プレゼント用招待券申込付)に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申送ください。

◆交通のご案内:

お車ご利用の場合

駐車場有 70 台、美術館入館者は無料

- 名神高速瀬田西 IC から湖周道路経由 (約 30 分)
- 名神高速栗東 IC から守山栗東線経由 (約 30 分)
- 名神京都東 IC から湖西道路 (真野 IC)・琵琶湖大橋経由 (約 30 分)

鉄道ご利用の場合

- JR 琵琶湖線守山駅から路線バス「佐川美術館」下車 (約 35 分)
- JR 湖西線堅田駅から路線バス「佐川美術館」下車 (約 15 分)

◆連絡先◆

公益財団法人佐川美術館

〒524-0102 滋賀県守山市水保町北川 2891

TEL:077-585-7800/FAX:077-585-7810

企画担当学芸員：藤井 康憲 (ふじい やすのり)

y_fujii010@sagawa-artmuseum.or.jp

作品画像使用申込書

佐川美術館 宛 FAX / 077-585-7810

ZENGA
白隠と仙厓展

申込日 2019 年 月 日

作品画像の掲載等ご使用にあたっての注意	● 申請された方法、目的以外には使用しないでください ● 掲載誌・紙は資料として 1 部以上お送りくださいますよう、お願い致します
使用作品	☐ 1. 白隠慧鶴《蓮池観音》江戸時代（18 世紀）個人蔵 ☐ 2. 白隠慧鶴《すたすた坊主》江戸時代（18 世紀）早稲田大学會津八一記念博物館蔵 ☐ 3. 仙厓義梵《文殊師利菩薩像》江戸時代（19 世紀）福岡市美術館（石村コレクション）蔵 ☐ 4. 仙厓義梵《天狗図》江戸時代（19 世紀）福岡市美術館（石村コレクション）蔵 ☐ 5. 白隠慧鶴《布袋吹於福》江戸時代（18 世紀）法華寺蔵（大洲市立博物館寄託） ☐ 6. 仙厓義梵《稚児舞図》文化 14 年（1817）九州大学蔵（福岡市美術館寄託） ☐ 7. 白隠慧鶴《富士大名行列》江戸時代（18 世紀）自性寺 大雅堂蔵 （九州国立博物館寄託） 展示期間：10 月 1 日（火）～11 月 4 日（月・祝） ☐ 8. 白隠慧鶴《鐘馗鬼味噌》江戸時代（18 世紀）海禅寺蔵 ☐ 9. 仙厓義梵《猫の恋図》江戸時代（19 世紀）九州大学蔵（福岡市美術館寄託） ☐ 10. 仙厓義梵《猿図》江戸時代（19 世紀）福岡市美術館（石村コレクション）蔵 ※ご希望の作品にチェックを入れてください。 ※ 作品画像を使用する場合は、キャプションを付けてください。 計 点
媒体名	
貴社名	
ご芳名(ご所属)	()
ご連絡先	ご住所：(〒 -) e-mail: TEL: FAX:
発行(掲出)予定日	年 月 日 号
使用形態(○印)	Web サイト / 印刷物(カラー / モノクロ)
招待券希望枚数	読者プレゼント用として、招待券 枚 ※ 枚数は 10 枚以内でお願いいたします。ご了承ください。